

(1) 地域総合研究センターの活動実績 (2002.10~2003.9)

松本大学総合経営学部
白 戸 洋

- 1 コミュニティ・ビジネスについての研究・支援
 - ①支援事業 ②モデル事業 ③コミュニティ・ビジネスを通じた教育活動
- 2 生活記録による世代間交流事業
 - ①交流学习会の実施 ②伝統行事の再現
- 3 地域づくり学習会
 - ①オープンカレッジ「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」 ②研修旅行
- 4 地域における学習事業への参画・支援
 - ①連続講座 NPO 学習会の開催 ②松本市城東公民館「自治講座」 ③松本市北部地区における若者と地域の交流事業への参画 ④松本市新村地区「ものぐさ大学」への参画 ⑤塩尻市塩尻東公民館成人講座「女と男きらめき教室」への協力
- 5 地域のコミュニティづくりに関する研究・支援活動
 - ①松本市芳川地区まちづくりへの協力 ②松本市地域コミュニティ懇話会への参加 ③松本市町内公民館「活動のてびき」作成への協力 ④信州まち・むら解体新書塾共催
- 6 農業活性化及び村づくりについての研究・支援
 - ①21信州むらづくり機構への協力 ②長野県農業普及事業外部評価への協力 ③「まつもと農村女性虹の橋プラン」の策定 ④松本農業ルネッサンス事業選考委員会への協力
- 7 行政職員等の研修事業
- 8 地域福祉経営に関する研究・支援
 - ①地域福祉経営に関する山形村と松本大学の協力 ②三郷村地域福祉行動計画策定への協力 ③中信社会福祉協会基本構想・基本計画策定への協力
- 9 市町村合併問題に関わる研究・支援
 - ①市町村合併から考える住民自治講座 ②地域福祉経営に関する学習会の開催 ③安曇野地域の合併構想策定への協力 ④筑北地域の合併構想策定への協力 ⑤安曇野地域社会福祉協議会合併準備会への協力
- 10 須坂市保健補導員制度の資料保存と研究事業の成果の贈呈

1 コミュニティ・ビジネスについての研究・支援

本センターは、平成14年度より地域の住民が主体となり、ビジネスの手法によって自立的、継続的に、地域の課題を自ら解決していく地域密着型のスモール・ビジネスである「コミュニティ・ビジネス」を21世紀の地域の発展の重要な活動と位置づけ、その研究・実践活動に取り組んでいる。同時に、コミュニティ・ビジネスは、地域を担う人材の養成という松本大学の教育理念を踏まえれば、大学教育においても重要な可能性を持つテーマでもある。

したがって、平成14年度よりシンポジウムや講演会、また長野県によるコミュニティ・ビジネスを支援する事業・施策との連携を行なってきた。平成15年7月には、コミュニティ・ビジネスの発展を促進するとともに、モデル事業を展開していくことを目的として中間支援機関として「ながのコミュニティ・ビジネス支援センター」を本センターが中心となって設立した。「ながのコミュニティ・ビジネス支援センター」は、本学教員と外部理事によって運営され、事務局は大学内に設置されている。

本センターは、「ながのコミュニティ・ビジネス支援センター」と連携して、①コミュニティ・ビジネスの発展のための支援、②モデル事業の展開、③コミュニティ・ビジネスを通じた松本大学の教育活動の展開に取り組んでいる。主要な事業は以下の通りである。

① コミュニティ・ビジネスの発展のための支援

- (1) 講演会・研修会などへの講師の派遣
- (2) コミュニティ・ビジネスに関する研究
- (3) コミュニティ・ビジネスに関わる人材の育成
 - ・長野県北安曇農業普及センターの「農村女性のための仕事起こしセミナー」への協力
 - ・須坂地域におけるコミュニティ・ビジネスセミナーの企画
- (4) 個別事業に対する助言・支援
 - ・飯山市社会福祉協議会における蓮炭を活用した製品づくりへの助言
- (5) 関連する団体・活動との連携・支援
 - ・NPOへの融資を行なうNPOバンクの理事への研究員の派遣
 - ・長野県地域通貨ネットワークへの協力
 - ・障害者の仕事づくりを目的とした長野県セルフセンターへの協力

② モデル事業の展開と支援

- (1) ながのコミュニティ・ビジネス支援センターによるモデル事業の推進
 - ・松本大学における地産地消の特産品づくり「屋台村構想」の企画・研究
 - ・ITを活用したネットワークづくり「新村地区IT戦略プロジェクト」の企画・研究
 - ・安曇野地域における滞在型観光事業に関する研究・参画・支援
- (2) 地域と連携して実施するモデル事業への参画・支援
 - ・山形村社会福祉協議会・ぼぼねっと企画「むかごちゃんプロジェクト」への参画・支援
 - ・松本市農協女性部による「松本一本ネギ」による農産加工事業への参画・支援
 - ・松本市蟻ヶ崎西区町会による食を通じた仕事と地域ケア創りの参画・支援
 - ・社会福祉法人アルプス福祉会・第2コムハウスの知的障害者の仕事作りへの参画・支援

- ・松本市島内地区「車屋せぎ周辺の環境保全型開発構想」への支援
- ・桜柿羊の里農事組合法人による「桜柿羊の里農業小学校」などへの参画・支援
- ・くれき野生産組合による「くれき野米」を中心とした地域づくりへの支援
- ・松本市新村地区における学生と住民による「柿とりプロジェクト」の実施

③ コミュニティ・ビジネスを通じた松本大学の教育活動の展開

- (1) 演習・講義におけるコミュニティ・ビジネスへの取り組み
 - ・総合経営学部地域行政コースの演習Ⅱにおけるコミュニティ・ビジネスの学習・研究
 - ・総合経営学部の地域開発における「車屋せぎ周辺の環境保全型開発構想」における実習
 - ・総合経営学部・松商短期大学部の社会活動におけるコミュニティ・ビジネスへの参画
 - ・松商短期大学部の特別研究におけるグリーン・ツーリズムの学習・研究
- (2) インターンシップ・実習・課外活動などにおけるコミュニティ・ビジネスへの取り組み
 - ・松本大学学祭「梓乃森祭」における地域交流とコミュニティ・ビジネスのひろばの開催
 - ・ながのコミュニティ・ビジネス支援センターにおける学生のインターンシップ
 - ・長野県主催の「賑わいクリエイター育成塾」への学生2名の派遣

2 生活記録による世代間交流事業

生活記録を通じた世代間交流事業として、平成14年3月より三郷村の及木老人クラブによる交流学習会を継続して実施している。交流学習会は、原則として毎月第三土曜日に実施され、昭和30年及び現在の生活について本センターの研究者も参画して話し合い、その結果を成果としてまとめている。また、本年度は、現在では行なわれていない伝統行事について実際に再現するという取り組みを行なった。具体的には、お盆の時期の灯籠流し及び、秋のお月見行事をそれぞれ再現した。平成15年度において、昭和30年代の記録の作成についてはほぼ終了する予定であり、成果は追って出版物として刊行することになっているが、今回は世代間交流学習の中間報告として、『「精霊流し」と「お月見」行事の再現から見えてきたこと』（p.131～p.140）を掲載した。

平成14年10月19日

生活記録（10月3日～10月17日）及木（安曇野）の方言

平成14年12月14日

生活記録（11月27日～12月30日）熟し柿の新しい利用法

平成15年1月26日

生活記録（12月31日・1月1日）しらみ、のみについて

平成15年2月8日

生活記録（1月2日～13日）もっこ、藁たたき、縄ないの再現

平成15年3月8日

生活記録（2月1日～28日）やししょうまについて

平成15年4月9日

学習会1周年記念そば会、学習会の今後の課題の検討

平成15年5月31日

特定テーマに関する生活記録（昭和30年代と現在の農業及び食べ物）

平成15年6月21日

生活記録（11月1日～11月15日）

平成15年7月20日

生活記録（11月15日～11月26日）

平成15年8月9日

伝統行事の再現（火籠流しの麦ふねづくり・養蚕）

平成15年8月16日

伝統行事の再現（灯籠流し）

平成15年9月13日

生活記録（10月18日～10月31日）・伝統行事の再現（月見の打合せ）

平成15年10月8日

伝統行事の再現（十三夜の月見）

3 地域づくり学習会

地域づくり学習会は、第一回としてオープンカレッジ「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」及び研修旅行「飛弾・美濃の旅～行政・住民協力型の村づくり」を実施した。オープンカレッジ「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」では、本センターの研究員である玉井袈裟男氏が、「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」の意義について問題提起を行なった上で、岐阜県大野郡清見村助役の松葉晴彦氏が、「人がかわった、地域がかわった、『ひだ清見』の村づくり」と題して清見村の事例を通じた地域づくりのあり方について講演した。講演では、清見村及びふるさと清見21の活動を通じて、過疎に向き合い、地域の資源を掘り起こし、地域活性化、人材の活用、ネットワークづくりなどについて、具体的な戦略について実践的な視点から問題提起があった。オープンカレッジを踏まえて実施した研修旅行「飛弾・美濃の旅」では、岐阜県高山市・大野郡清見村・郡上郡明宝村などを訪問し、行政・住民協力型の村づくりをテーマに体験学習を行なった。特に、清見村では、松葉助役の案内で講演で学習した地域づくりの現場を視察した。それぞれの概要は以下の通りである。この第一回の学習会の講演録及び研修旅行の報告は、(2)の地域づくり学習会(p.141～p.171)に掲載してあるので、参照していただきたい。

「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会」

日時：平成14年11月29日（金）午後1時30分～4時30分

場所：松本大学524教室

講演 「人にやる気・村に活気・地域づくり学習会の意義」

松本大学地域総合研究センター 研究員 玉井袈裟男

講演 「人がかわった、地域がかわった『ひだ清見』の村づくり」

岐阜県大野郡清見村 助役 松葉晴彦氏

「飛弾・美濃の旅～行政・住民協力型の村づくり」

日時：平成15年6月5日（木）～6日（金）

場所：岐阜県高山市・大野郡清見村・郡上郡明宝村

- ・高山市など見学（高山町並み・飛驒古川まつり会館・飛弾国際生活文化センター）
- ・大野郡清見村視察（堆肥場・園芸育苗センター・農産物加工所・工芸展示即売所・せせらぎ街道・道の駅ふるさと公園パスカル清見）
- ・郡上郡明宝村視察（明宝レディース・郡上八幡町並見学）

本センターでは、今後も「住民主体のむらづくり」、「企業主体のむらづくり」、「女性起業の村づくり」、「民宿グリーンツーリズム」、「地域特性を活かしたむらづくり」などのテーマに沿って地域づくり学習会を企画・実施する予定である。

4 地域における学習事業への参画・支援

本センターは、地域における多様な学習活動に対して、様々な方法で参画・支援を実施している。長野県の特徴である社会教育の活動、すなわち公民館、社会体育、文化芸術活動などに対して、大学の資源を活用して積極的に支援を行なっている。学習会・講演会の共催、講師の派遣、学生の参画、施設の提供など、エクステンションセンターと連携して、地域の学習活動の拠点としての役割を果たしている。

連続講座 NPO 学習会の開催 平成14年10月～平成15年11月（継続中）
 連続講座「NPO 学習会」実行委員会・松本市中央公民館・NPO ネットワーク信州

連続講座 NPO 学習会「自分の知らない他人を知り、世間を広げてみよう」は、平成12年度より、毎月第2金曜日も開催されている。本講座は、本センターと松本市中央公民館・NPO ネットワーク信州によって構成される連続講座 NPO 学習会実行委員会が主催している。地域の住民の活動やNPOの活動事例をテーマとして学習することによって、多様な活動を活性化させ、あわせて地域のネットワークを創造することを目的としている。

平成14年

- 10月 健常者と障害者の通訳として（ぴあねっと21副所長 降旗和彦氏）
- 11月 健常者と障害者の通訳として（松本大学 白戸洋氏）
- 12月 地域活動の先に地方自治があった（瑞松寺 茅野俊幸氏）

平成15年

- 1月 医療～私達からミレバ・・・（南相木村診療所長 色平哲郎氏）
- 2月 お医者さんと仲良く付き合おう（松本市蟻ヶ崎西区町会 福嶋昭子氏）
- 5月 なぜ、君は学校に行くの①（信濃むつみ高校教諭 竹内忍氏）
- 6月 なぜ、君は学校に行くの②（サンメンタル・臨床心理士 矢崎久氏）
- 7月 なぜ、君は学校に行くの③（NPO法人ジョイフル理事 青柳久美氏）
- 9月 外国人検診～共に生きる場として（北信外国人医療ネットワーク 松村隆氏）
- 10月 保健婦さんスリランカに行く（青年海外協力隊OG・松本市保健婦 丸山貴恵氏）
- 11月 地域の健康づくり（松本市健康づくり推進委員会 小岩井美津子氏）

松本市城東公民館「自治講座」 平成15年3月
 松本市城東地区公民館

地域づくり事業として開催された「自治講座」において、「地域の変革を学ぶ～大学紹介、市町村合併・地域づくりについて」、「ちまたの経済学～景気の現状、動向、デフレなどについて」というテーマに関する講義を研究員が行なった。

松本市北部地区における若者と地域の交流事業への参画 平成15年3月～12月（継続中）
 松本市北部公民館

松本市北部地区における若者と地域の交流事業は、平成13年度より、住民のまちづくり組織である「こんな町つくろう研究会」と北部公民館が、松本美須ヶ丘高校生徒会、松商短大（現松本大学）の学生とともに始めた意見交換会から発展したものである。平成14年度以降、丸ノ内中学、旭

町中学、松本大学エクステンションセンター、安原公民館、城北公民館が参加し、世代間交流を2年間で5回実施し、参加者も延べ272人に達した。これらの実績を踏まえて、丸ノ内中学生徒の提案から、平成15年度には、“楽都”松本・音楽あふれる街づくりを目標に、「街角コンサート」を学生達が発案、企画し、サイトウキネンフェスティバルの開催中、学生と市民の方々が一緒になって「街角コンサート」を松本市の市街地で開催した。この「街角コンサート」は北部地域の高校、中学校、小学生、公民館サークルと松本大学の学生が参加して、出演者数も延べ500名に達した。本センターは、この交流事業を地域と学校の交流の実践モデルとして共催・支援した。

「ものぐさ大学」 平成15年6月～平成16年3月（継続中）
松本市新村地区公民館・新村地区福祉ひろば・松本大学共催

大学の地元新村において、地域と大学が一体となって文化の薫り高い田園都市新村を築くことを目的として、公民館・福祉ひろば・松本大学が共同で「ものぐさ大学」を開講し、6回にわたる講座を実施している。山菜の採取や美術館巡り、ものぐさ太郎サミット、ものぐさのゆかりの地を訪ねる視察研修などによって構成され、本センターの研究員が講師として参画し、本学学生も参加している。

成人講座「女と男きらめき教室」 平成15年9月～平成16年3月（継続中）
塩尻市塩尻東公民館

塩尻市東地区公民館が主催して、平成12年度より開始された「女と男きらめき教室」は、身近な地区において地域に女性が参画して共生のまちづくりを進めることを目的としており、平成15年度には全8回の講座が予定されている。本センターからは、研究員がコーディネーターとして開始時より継続的に参画している。また、平成15年度からは、松本大学学生が参加している。

5 地域のコミュニティづくりに関する研究・支援活動

本研究センターは、地域コミュニティの再構築をテーマとして、長野県・松本市における学習・実践活動に参画している。これらの活動は、コミュニティ・ビジネスへの取り組みの基盤ともなっている。

芳川地区まちづくりへの協力 平成14年9月～平成16年3月（継続中）
松本市芳川地区公民館

松本市芳川地区公民館による地区のまちづくりを考える「芳川カエルまちづくり研究会」に研究員がコーディネーターとして参画している。月に一度、開催される研究会では、「子ども」「福祉」「まちづくり」「町内会」などのテーマを中心として討論を行なっている。今後は住民が主体的に行なう具体的な活動・事業につなげていくことを目指している。

松本市地域コミュニティ懇話会への参加 平成14年11月～平成15年3月
松本市（市民環境部）

行政機構と町会との関係のあり方について、松本市に検討を依頼されていた松本市地域コミュニティ懇話会に参加し、研究員が会長を務めた。住民に最も身近な自治組織である単位町会・地区町会連合会等についてのあり方や行政のかかわり方について検討を行ない、「地区町会連合会及び単位町会設立の要件等について」という回答書をまとめた。

松本市町内公民館「活動のてびき」作成への協力 平成15年1月～12月
松本市中央公民館・「町内公民館活動のてびき」企画編集委員会

松本市町内公民館の活動を振興させるために、作成する「町内公民館活動のてびき」の企画・編集作業への協力を行なっている。活動のマニュアルとしての「てびき」とこれまでの活動の事例をまとめた「実践集」の編集に研究員が参画している。

信州まち・むら解体新書塾 平成15年7月～平成16年2月（継続中）
地域づくりネットワーク長野県協議会

住民自らが考え自らが行なうという住民主体の地域づくりをより一層推進することが重要であることから、地域の核となる人材を育成していくことを目的とする「信州まち・むら解体新書塾」を信州自治体学会、長野県とともに共催し、運営などに協力を行なっている。

6 農業活性化及び村づくりについての研究・支援

松商学園短期大学総合研究所の時代から、農業活性化及び村づくりの研究や参画は本研究センターの重要なテーマであり、本年度においても、以下のような事業に取り組みとともに、研究員を講演会や研修会の講師として派遣をしている。

21信州むらづくり機構への協力 平成14年6月～平成16年5月
21信州むらづくり機構

農業・農村の発展を目的として活動している「21信州むらづくり機構」に専門アドバイザーとして研究員を派遣している。専門アドバイザーは、全般的な助言などを行なうとともに講演会・研修会などの実施に協力している。特に各地の農村女性ネットワーク（農村生活改善グループ）の活動には研修会などを通じて支援を行なっている。

長野県農業普及事業外部評価への協力 平成14年10月～平成15年3月（平成14年度）
平成15年11月～平成16年3月（平成15年度）
長野県農政部

長野県が実施している農村における農業普及事業と農業普及センターの活動についての外部評価に研究員が委員として参加している。

「まつもと農村女性虹の橋プラン」の策定 平成14年3月～平成15年3月
松本市農村女性活動促進推進会議（まつもと農業女性協議会・JA松本ハイランド女性部・松本市農協女性部により構成され、事務局は松本市農業委員会事務局が担当）

松本市農村女性活動促進推進会議による村女性の能力開発や地位向上を目的とした「まつもと農村女性虹の橋プラン」の策定に、研究員に加えて学生が参画した。家族経営協定の推進や加工施設の充実など、若者の意見も反映させて5ヶ年計画をとりまとめた。

松本農業ルネッサンス事業選考委員会への協力 平成15年7月～平成18年7月
松本市（経済部農政課）

松本市が農業・農村の活性化を図ることを目的として地域の特性を生かした地域の住民が主体の農業振興事業について補助金を交付する松本農業ルネッサンス事業に関する選考委員会に研究員を派遣している。本事業は、平成6年から実施されているが、より効果的に事業を推進することを目指している。

7 行政職員等の研修事業

長野県の地方自治体の支援を受けて設置された松本大学は、地域の行政に関わる課題について、積極的に取り組んでいるが、本センターにおいても行政職員などを対象にした研修・学習事業を実施している。主要な事業は以下の通りである。

名称：市町村社会福祉協議会事務局長・福祉活動専門員研究協議会「住民参加による地域づくりを考える」 対象：市町村社協事務局長・福祉活動専門員
期間：2日（平成14年12月） 相手先：長野県社会福祉協議会

名称：市町村社会福祉協議会経営セミナー 対象：社会福祉協議会理事・評議員・職員
期間：1日（平成14年10月） 相手先：長野県社会福祉協議会

名称：「学童保育を語る集い」 対象：長野県内の学童保育職員・関係者
期間：1日（平成15年2月） 相手先：長野県学童保育連絡協議会

名称：レベルアップセミナー 対象：長野県内の共同作業所・障害者施設関係者
期間：2日（平成15年3月） 相手先：長野県共同作業所連絡会・長野県セルフセンター

名称：NPO・市民活動についての研修 対象：松本市内の公民館職員・市教育委員会職員
期間：1日（平成15年6月） 相手先：松本市公民館主事会

名称：松本地区生涯学習現地機関職員研修 対象：松本地区の長野県の生涯学習施設職員
期間：1日（平成15年7月） 相手先：長野県松本教育事務所

名称：地域づくりについて 対象：松本市内の公民館館長 期間：1日（平成15年7月）
相手先：松本市公民館館長会

名称：NPO・市民活動について 対象：松本市社会教育委員 期間：1日（平成15年9月）
相手先：松本市教育委員会

名称：地域福祉に関する職員研修 対象：松本・塩尻・東筑摩・南安曇郡社会福祉協議会職員
期間：1日（平成15年12月） 相手先：長野県町村会

名称：ワークショップによる住民参加手法の研修 対象：豊科町職員
期間：延べ8日間（平成15年12月～平成16年3月） 相手先：豊科町（企画課）

8 地域福祉経営に関する研究・支援

本研究センターは、少子・高齢化の中で重要とされる地域福祉をテーマに、住民主体による地域福祉経営の観点から研究・支援を実施している。特に山形村とは山形村社会福祉協議会を通じて、本学の教育活動と連携しながら、共同プロジェクトとして取り組んでいる。

地域福祉経営に関する山形村と松本大学の協力 平成14年～平成17年7月
山形村・山形村社会福祉協議会

東筑摩郡山形村山形村と松本大学は、山形村の福祉づくりと大学生の地域の中での育成を目的として平成17年3月31日を期限として協定を締結し、以下の協力を行なっている。

- 1 インターンシップを通じた地域福祉事業の支援
 - ① ボランティアセンターにおけるアシスタント・コーディネーターとして学生の派遣
 - ② コミュニティ・ビジネス「むかごプロジェクト」への学生の参加
- 2 共同研究
 - ① 地域福祉経営学習会の開催
 - ② コミュニティ・ビジネスに関する共同研究とモデルプロジェクトの実施と評価・今後のコミュニティ・ビジネスの展開の検討
- 3 大学教員の派遣
 - ① 社会福祉協議会地域福祉推進委員会への教員の委員としての派遣
 - ② 講演会・研修会などへの教員の講師としての派遣
- 4 地域福祉計画策定への教員・学生の参画と協力
- 5 その他の主な事業
 - ① 職員の研修・学習への大学の協力
 - ② 地域福祉に関わるコミュニティ・ビジネスの事業の共同実施
 - ③ 退職した高齢者や子育て中の母親などの仕事づくりを通じた生き甲斐・子育て支援

三郷村地域福祉行動計画策定への協力 平成15年9月～平成17年3月
三郷村社会福祉協議会

安曇野地域の新市に合併を予定している三郷村を対象として、身近な地域の住民主体による地域福祉、介護システムの構築を目的とする三郷村地域福祉行動計画策定について、委員の派遣、学生のインターンシップなどを通じた協力を行なう。

中信社会福祉協会基本構想・基本計画策定への協力 平成15年11月～平成16年11月
中信社会福祉協会

松本広域圏に障害者福祉に関わる4施設を運営する中信社会福祉協会の中長期ビジョンの策定について、策定委員会へ人員を派遣するほかインターンシップを通じた協力を行なう。

9 市町村合併問題に関わる研究・支援

本研究センターでは、市町村合併に関わる様々な課題について、様々な視点から研究を行なうとともに、地方自治体、社会福祉協議会、社会教育機関、NPO、地域の団体・グループなどからの依頼にもとづいて、行政の委員会などへの人員の派遣、学習会・講座の開催、講演会・研修会への講師派遣、アドバイスなどの支援活動を実施している。

市町村合併から考える住民自治講座 平成14年10月～12月 全10回
松本市南部公民館

地域の歴史、経済、文化などの視点から市町村合併によってもたらされる変化を掘り下げて考え、基盤となる住民自治のあり方を考えていくことを目的とした講座を松本市南部公民館と共同企画によって行ない、講座のコーディネーターを担当した。運営にあたっては、本学エクステンションセンターが共催団体となった。

地域福祉経営に関する学習会の開催 平成14年7月～平成15年3月
本センター・山形村・四賀村・梓川村・波田町の各社会福祉協議会

松本広域圏における合併問題と地域福祉のあり方、特に社会福祉協議会の方向性をテーマとした月例の学習会を山形村・四賀村・梓川村・波田町の各社会福祉協議会とともに本センターが主催して開催した。

安曇野地域の合併構想策定への協力 平成15年2月～9月
安曇野地域合併協議会

安曇野地域（豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町）の市町村合併に向けての安曇野地域・新市将来構想策定委員会への委員の派遣・その他の協力を行なった。

筑北地域の合併構想策定への協力 平成15年5月～8月
筑北地域合併協議会

筑北地域（東筑摩郡坂井村・坂北村・麻績村・本城村）の市町村合併に向けての将来構想委員会への委員の派遣を行なった。

安曇野地域社会福祉協議会合併準備会への協力 平成15年10月～平成17年3月
長野県社会福祉協議会

安曇野地域のまちづくりを描く新市将来構想にもとづいて、豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村社会福祉協議会による法人合併に向けての準備を進めている長野県社会福祉協議会に対して、アドバイスなどの協力を行なう。

10 須崎市保健補導員制度の資料保存と研究事業の成果の贈呈

平成15年11月10日、須崎市役所において、須坂市の保健補導員制度に関する資料の収集、整理、保存事業とその資料をもとにした研究の成果を須崎市に対し、贈呈を行なった。

本事業は平成9年度から開始され、当時の松商学園短期大学総合研究所（現松本大学地域総合研究センター）の事業として、玉井袈裟男研究員を中心として、須崎市における保健補導員活動の資料につき、マイクロフィルムに記録して保存するプロジェクトを実施した。

さらにそれらの資料をもとに平成14年3月には、プロジェクトの調査結果を分析し、「松商短大論叢」第52号において「地域の健康づくりとコミュニティの再構築～長野県須坂市の保健補導員制度の今日的意義」として論文に取りまとめた。

今回はマイクロフィルムと論文を贈呈した。贈呈式には、須崎市からは市長、助役が、本研究センターからは玉井袈裟男研究員など2名が出席した。贈呈された成果の内容は以下の通りである。

① 須崎市保健補導員制度に関する関係資料のマイクロフィルム

- 1 保健婦業務十周年記念号
- 2 須崎市保健補導員十年の歩み
- 3 昭和44年度保健文化賞受賞記念号
- 4 須崎市保健補導員二十年の歩み
- 5 須崎市保健補導員三十年の歩み
- 6 須崎市保健補導員四十年の歩み
- 7 保健補導員会ニュース
- 8 栗田資料全14枚
- 9 「検証・地域医療」
- 10 「須坂のかあちゃんがんばる」
- 11 推薦事業に関する概要書
- 12 大峡美代志
- 13 保健補導員関係書類編冊 昭和33年～
- 14 保健補導員関係書類編冊 昭和41年～昭和44年
- 15 保健補導員関係書類編冊 昭和43年4月～45年3月
- 16 保健補導員関係書類編冊 昭和45年4月～47年3月
- 17 保健補導員関係書類編冊 昭和49年4月～51年3月
- 18 地域組織活動の現状とあり方（パネルディスカッション）
- 19 日野村の保健補導員誕生と当時の生活
- 20 八重森補導員の記録
- 21 補導員のしおり
- 22 補導員名簿 1期～9期・役員
- 23 環境衛生事業の概要
- 24 文化賞資料原稿
- 25 昭和43年度老人乳幼児医療特別給付金申請給付状況
- 26 活動記録集 7,9,11～19期
- 27 須崎市保健補導員会発足40周年のつどい
- 28 第8回市民健康づくり

29 ベトナムにタオルを送ろう（新聞記事）

30 保健予防事業のあらまし（保健関係データー、昭和58年、昭和60年～平成8年）

② 研究成果

「地域の健康づくりとコミュニティの再構築～長野県須坂市の保健指導員制度の今日的意義」平成14年3月、「松商短大論叢」第52号別刷